



上半期の移住・定住促進活動報告

増やして元気隊

熱海市は昭和40年の人口52,163人をピークに人口減少の波にさらされていて、現在人口36,685人(9月末)は往時の70%になっています。昨今は観光客の回復もあって少しは回復するかの期待がありますが、実態は歯止めがかかっておらず深刻化しているのが現状です。

近年の毎月の平均人口減少数

平成20年～平成25年	30.3人
平成26年～平成30年	30.5人
平成31年1月～令和元年9月	31.4人

人口は町の力です。その町がどれだけの人を養っていきけるかの大きな指標なのです。

こうした中、増やして元気隊は少しでも熱海の人口増に寄与したいと、4年前のCCRCの流れを継承して、静岡県に移住定住部主催のセミナー(於:東京有楽町交通会館 年3回)、首都圏各行政機関などからの情報を頼りに移住促進のサポートをしてきております。



しかしながら、ライフ熱都の身丈に余るテーマと熱海市に移住促進の担当窓口がないというハンディは大きく、他の自治体と比べて推進パワーが圧倒的に足りません。熱海市の策転換と組織変革を渴望している現状です。

上半期の活動状況(情報源別フォロー状況)

月	県主催イベント	移住センター	首都圏行政機関	その他	案件別現状
4月		1	1		内定1 有効3 中止1
5月		2	1		中止1
6月	7	1	1		内定1 有効1 中止1
7月		2	1		
8月				1	
9月	20	2	3	1	有効2 中止1

※内定 居住先等内定し、不動産関係に申込金支払い済み
 ※有効 テスト宿泊などを通じ1年以内に移住希望あり
 ※中止 教育環境、就職、生活条件等合致せず取りやめ
 情報総数44件のうち13件フォロー中

子供食堂・伊豆山農園の近況

100歳元気、子供で元気隊

昨年12月より伊豆山地域で活動している任意団体ファミリーサロン熱海伊豆山を支援する形で毎月2回活動し

ており、毎回20～40人の小学校の児童とその両親、地元住民、移住者が出席、楽しい時間を過ごしています。

目的は現代の核家族化と少子化により子供と高齢者が触れ合う機会が失われつつあるので、その機会を地域と協力して



作っていくことです。この伊豆山に於いては「子育て」と「食」と「農業」という関連するテーマをつなぎ合わせる事ができましたので、街おこしのモデルケースとして進化させていきたいと思っています。

① 子供とカメさん食堂概要

伊豆山仲道公民館において地元で獲れた野菜を利用し、食事の提供(子供無料・大人500円)とアトラクションを企画。毎月第2、第4日曜日の11時～3時まで。

② 伊豆山農園の概要

地元の休耕地(畑300坪)の提供していただき、MOA自然農法の理念に基づき農業理論と農業実習を行っています。年会費5000円 受講料1000円/月 テキスト代2000円

講演会・神田 すみれ講演会

温泉で元気隊

講演会・神田すみれの講演会が開催されます。これは、温泉セミナーなど協力頂いている熱海養生法実行委員会が行っている「温シエルジェ&温泉観光士養成講座」の一環として行うものですが、ライフ熱都が全面的に協力してまいります。温謝知新・演芸で学ぶ熱海の歴史として内田進(熱海商工会議所会頭)による講演と神田すみれ、丸一菊仙(江戸太神楽)、華の舞の演芸が行われます。

料金 一般2000円。

演題「天下統一熱海湯けむり」

2月16日(日) 芸妓見番にて開催 14時開演

さて神田すみれさんは熱海をどうひも解いてくれるでしょうか。

ヘルスツーリズムの今後の展開

温泉で元気隊

ヘルスツーリズム(以下 HT と略す)の推進に関して、当初の計画では年央にもモデルパターンを作って試験的に実施し、期末にはまとめの作業をする予定で進行していました。しかし、検討を重ねていく過程で現場の皆さんの置かれている状況の把握や誰が事業主体になれるのか、また我々の力量はいかほどかなどの大きな壁に当たっています。

その打開策として昨年お集まりいただき、ご意見を頂いた有識者の一方々にじっくり個別にインタビューする企画を実施しております。以下はその概略です。

I. 以下の4人の方々とのヒアリングを終えました。

熱海市観光協会 深田真弓 氏
市議会議員 赤尾光一 氏
熱海温泉ホテル旅館協同組合
専務理事 加藤光良 氏
JTB 静岡支店 吉田和正 氏

II. 出された意見

- ①、特定のホテル旅館の個別事業でなく、熱海温泉としての動きでありキャンペーンであるべきだろう。
- ②現在の熱海は活況を呈していると言われているので、新しい販売企画を提案するには時期が悪い。
- ③小さなプログラムの組み合わせで消費者側が一つでも二つでも選べるようにすると自由度が高くなり、予算が決めやすい。HT プログラムは改めて創作しなくても“今あるもの”で充分である。食、運動、観光、とも熱海には既にハードソフトとも有り育っている。
- ④この熱海版 HT は「熱海ならでは」のものでありたいし、この条件がなければいけない。
- ⑤HT にかかる企画、調整、などのマネジメントや告知、販売企画などマーケティングは各ホテル旅館側では人手も時間も割けない。
- ⑥この HT 企画には事務局機能が不可欠だ、継続的なマネジメント作業、マーケティング、マーチャンダイジングなどの連携作業が必要になる。誰が、費用は？
- ⑦費用はスポンサーを探す方法もある。告知販売費用は旅行代理店(プロ)に任せるべき。
- ⑧2030 会議は行政も関与してウェルネスツーリズムを検討している。熱海市は DMO を検討している。HT も観光地経営という意味では同じ目的であるから協業すべきであり両団体との打ち合わせを望む。
- ⑨“今あるもの”をプログラムにすると自ずと”市民参加型”になる。食は市民が作る。街歩きガイドは市民、交通機関、ヨガも農業も。まさに観光地経営のあるべき姿ではないか？

以上のようなご意見がありました。今後のプロジェクト推進上のポイントは、核として取りまとめる事務局の必要性と同様な思考のある他団体との協働を目指すべきということにありそうです。予想以上に大きな課題が浮かび上がっておりますが、これらの意見を精査し、より良い方向に向けて進めてまいります。

「タウト熱人集団」活動を開始！

(タウトネットシュウダン) 繋いで元気隊

熱海にある唯一の重要文化財(建物)である旧日向家熱海別邸が2022年(令・4)4月に開業を予定しており、総



工費3億円(国3/6、県1/6、市2/6)を投じて3年近くをかけての大改装工事が進行している。

設計は「ブルーノ・タウト」で世界遺産の建築家であり、来日し「桂離宮」の価値を世界のみならず日本に知らしめた人物。幻に終わったが、かの黒澤明が助監督のころ描いていた「達磨寺とドイツ人」のモデルでもあります。3年半ほどの在日中で設計した唯一の現存建物でもあります。



タウト熱人集団は、休眠中であった「旧日向別邸保存会」が中心となり、NPO法人ライフ熱都・繋いで元気隊の中につくられ活動を開始しました。

目的 熱海国際観光温泉文化都市の重要施設とすべく、市民としてできる広報活動、重要文化財の学習、健全な維持管理の学習、国際的な交流活動など、市や市教育委員会、関係団体との協働体制の下での活動を目指します。また培った体制、ノウハウ、実行力を基に、観光・文化・交流を中心に、開館後の管理・運営を受託し長期にわたり広く世の中に貢献しています。



活動 タウト塾の開催

具体的な活動は「タウト塾」を開催することで行います。この塾は、①重要文化財 ②ブルーノ・タウト ③日向邸の三部門で構成され、工事の進捗に併せ、募集中の「塾生」を軸にして開催します。講座、セミナー、勉強会、交流会、見学会、展示会など多彩な関係者、機関と共に活動していきます。また重要文化財、ブルーノ・タウト、観光熱海の見地から、広く日本、ドイツ、世界を見据え、観光立国としての日本に貢献していきます。ご支援下さい。



詳細は <タウト熱人集団>で検索